

令和元年司法試験 合格体験記

平成27年度修了（未修コース）稲垣 実里

10期未修の稲垣実里です。岡山大学法科大学院を平成28年に修了し、令和元年の司法試験で、無事合格することができました。

私は、4回目の受験で合格したので、まず、3回目までの反省点を述べたいと思います。

在学中及び3回目までの勉強方法は、たくさんの問題集を使用し、知らない論点をなくすことを中心にしていました。これは、司法試験の出題範囲が膨大であることや問題の難易度から、知識を増やせば合格できると考えていたからです。しかし、手を広げるほど不正確な知識ばかりとなってしまう、いざ本番となると何となくわかるが書けないという状態に陥ってしまいました。

そこで4回目は、手を広げすぎないことを意識しました。具体的には、過去問の他に1科目当たり1冊の問題集を決め、その中でもA、B+の論点まで絞り込んで正確に本番で書ける知識の習得に努めました。他の論点の学習をしないことに抵抗はありましたが、重要な論点の学習が正確にできていれば、その知識を用いて未知の論点にも対応できると考えていたので、不安はありませんでした。

また、インプット面においても、「本番で書く」ことを意識しながら勉強しました。具体的には、答案を読み、解説を読んでから問題文を解くという方法です。初めに答案を読むことで、何が問題となっているか、その問題についてどれくらいの分量を割くべきか、拾うべき事実は何かを確認することができます。そのため、答案を意識しながら問題文を読むことができ、答練や本番でもキーワード等から論点に気付いたり、論点発見のスピードが速くなりました。さらに、書きすぎ防止のためにも、答案に書く分量の目安が分かるようになったので有効な手段となりました。

最後になりましたが、私が司法試験に合格できたのは、ご指導して下さった先生、弁護士の方々、学習環境を整えてくださった職員の方々、励ましてくれた家族、友人等といった関係者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。